

# I 研究計画

## 目指す子供の姿

共に思考を深め、表現や聴き方を更新していく

音楽科における納得解を導く姿を「共に思考を深め、表現や聴き方を更新していく」と設定し、研究に当たる。

### 1 目指す子供の姿について

「共に思考を深め」とは、身に付けた知識・技能を活用しながら、対話を通して表現の工夫についての課題や聴いた音楽についての気付きを見だし、表現についての意図を高めたり、聴いた音楽のよさ等について感じ方を広げたりすることである。ここでの対話は、音楽から見いだした客観的な理由や根拠を基にした音や音楽及び言葉による対話である。

「表現や聴き方を更新していく」とは、表現についての意図を高め、さらなる工夫を加えていくことや、音楽の聴き方や感じ方を広げたり深めたりすることである。そして、そこで完結するのではなく、よりよい表現や聴き方を求め、繰り返し工夫を試したり新しい視点で聴き深めたりしていくことである。

対話を通して思考を深めることによって、表現についての意図を高めたり、聴いた音楽のよさ等について感じ方を広げたりし、表現や聴き方を更新していくことができるようになる。

### 2 これまでの取組について

1年次は、「中心となる要素を焦点化する場面の設定」と「客観的な理由や根拠を基にした対話の充実」の2点を研究内容として研究を進めてきた。

成果としては2点挙げられる。1点目は、表現と鑑賞の活動を関連させた題材構成の基で、中心となる音楽を形づくっている要素を焦点化することにより、子供が見通しをもち、題材全体を通して繰り返し音楽的な見方・考え方を働かせながら学習を進めていく姿が認められたことである。2点目は、表現について工夫の意図が高まったり聴き方が深まったりしたことである。

しかし、問題点が2点残った。1点目は、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて捉える力がまだ十分ではないことである。2点目は、ある程度表現をつくったり聴き深めたりするとそこで満足してしまうことである。これらの問題を改善するためには、対話場面における思考を深めるための手立ての工夫が課題である。教師が手立てを工夫することで、子供は聴き取ったことと感じ取ったことについて実感を伴って関連付けて捉えたり、新たな気付きを得て主体的に表現や聴き方を更新したりすることができるようになると思った。

### 3 研究内容について

目指す子供の姿に迫るために2年次は研究内容として以下の2点に取り組む。

#### (1) 中心となる要素を焦点化する場面の設定

題材または一時間の授業において、表現を工夫したり、鑑賞を深めたりする際の中心となる要素を焦点化する場面を設定する。音楽を形づくっている要素の焦点化を図ることによって、以下3点のことが期待できる。1点目は、子供が見通しをもって学習に取り組むことである。2点目は、対話をする際の視点が焦点化され、子供の思考が深まっていくことである。3点目は、学習の振り返りの際に子供が学んだことを実感できることである。

例えば、表現活動において「強弱」を取り上げるとき、子供がつくる表現は多様であるが、対話の際に「強弱」を焦点化させることにより、子供は考えを伝え合いながら意図を高め、よりよい強弱表現を見いだして工夫していくことができる。

#### (2) 対話場面における思考を深めるための手立ての工夫

表現や聴き方を更新していくことができるようにするためには、対話場面において表現や音楽のよさ等を共有し、表現についての様々な発想や、鑑賞についての気付きを得ることができるようになることが必要である。そのために、教師は子供の思考の助けとなる手立てを行う。例えば、考える時間の保障、色や形、図

形楽譜、身体表現等を用いた音楽の可視化、比較聴取させ音や音楽で確認すること等である。また、よりよい表現や聴き方を求めていく子供の姿も価値付けていく。これらの手立てを行うことにより、思考を深め表現や聴き方を更新していくことができるようにする。

#### 4 検証方法について

発言、行動、学習カードの記述、楽譜等のかき込み、演奏聴取、身体表現、録音、録画等から子供の変容を見取る。

## II 研究実践及び考察

【実践例① 授業者：木村麻美 対象：3学年2組】

本時で目指す授業

聴こえた旋律に合わせて立たせたり、音楽を図で板書したりすることなどの可視化によって、音楽の特徴に気付かせる。音色や強弱に着目させたり、比較聴取させ音楽で確認したりしながら対話を通して曲を聴き深めていく授業。

### 1 題材名 「ききどころを見つけて」

教材名 組曲「アルルの女」から「メヌエット」「ファランドール」（ビゼー作曲）

### 2 題材の目標

- 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わり気付くことができる。
- 音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
- 楽器の音色や曲の流れを捉えて聴く学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

### 3 目指す子供を育てるために

題材で目指す子供の姿

音楽を聴いて、新たな音楽の特徴を見付けたり対話によって自分の考えを深めたりし、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし聴き方を更新していく姿。

手立て

- ・中心とする要素の焦点化…音色、旋律、反復、変化
- ・音楽を聴き、音楽の構造や音色、旋律などについての気付きを得るための音楽の可視化（グループに分かれて立つ、板書）・比較聴取など

題材について

- ・音楽の特徴を捉えることができる。（音色、旋律、反復、変化）
- ・旋律の変化や再現、重なりを捉えやすいので、注目しながら聴くことで、ほかの特徴にも気付くことができる。

題材で育てたい資質・能力

- ・曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わり気付くこと。
- ・旋律の反復や変化を捉えて聴いたり、楽器の音色を味わったりすること。
- ・音楽の特徴と面白さを関連付けて捉え、伝え合うこと。

主に働かせる見方・考え方の働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、曲全体を味わって聴くこと。

### 子供の実態

- ・音楽の強弱や音色，反復などを聴き取ることができる。
- ・感じ取ったことについては，音楽室に掲示されている「音楽の感じを表す言葉」を参考にして発言することができる。
- ・音楽の特徴とそこから感じ取ったことについて，それらに関連付けて捉えて伝えることについては個人差がある。

## 4 授業の実際

### (1) 本時の目標 (3 / 3)

音色，旋律，反復，変化とそれらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲のよさを見だし，曲全体を味わって聴くことができる。

### (2) 授業の概要

- 1 前時聴いた部分 (旋律A1, B1) を振り返る。
- 2 めあてを確認する。

「ファランドール」の続きを聴いて，この曲の紹介文を書こう。

#### 音楽についての気付きを得るための手立て

- 3 続きを予想してから聴く。
- \* 詳細は「授業の考察」(1)①の Protokol 参照
- 4 続きを聴いて曲の構造に気付く。
- \* 詳細は「授業の考察」(1)②の Protokol 参照
- 5 動画 (DVD) を見る。
- 6 この曲の特徴をまとめる。
- 7 学習したことを振り返る。

**評価**：音色，旋律，反復，変化などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲のよさを見だし，曲全体を味わって聴いている。

## 5 授業の考察

### (1) 音楽についての気付きを得るための手立て (比較聴取，可視化) の活動場面の Protokol からの考察

- ① この場面では，A2の部分の旋律や速さを聴かせるために，どのような音楽になるか予想させてから聴かせた。以下が聴いた後の Protokol である。

【A2がA1に似ていることに気付かせるためのA1とA2の比較聴取】

以下，点線部は音楽を形づくっている要素についての発言

(B2の続きを予想してからA2を聴いた。)

C: リズムが同じなんだけど最初より速くなっている。

C: 音が変わった。

T: A1とB1のどちらに似てますか。(ほとんどの子供がA1の方に手を挙げた。) どうして?

C: 楽器の音が似ていた。A1と今のは楽器の音が多くてB1は音が少ない。

C: A1と今のはリズムが同じ。速さが違うだけ。

A2を聴いた後，A1とB1のどちらに似ていると思うか子供に挙手させたら，ほとんどの子供がA1の方に手を挙げた。その理由を聞くと，リズム (旋律) が同じこと，使われている楽器の音が似ていることを挙げた。またA1と違う所についてたずねると，速さが速くなっていると答えている。

- ② この曲の構造に気付かせるために，AグループとBグループに分けて，Aの旋律が聴こえたらAグループ，Bの旋律が聴こえたらBグループが立つように指示した。以下は，その活動後の Protokol である。

【音楽の構造に気付かせるための音楽の可視化】

以下、波線部は構造についての発言

C: (AグループとBグループに分かれて音楽に合わせて立つ)

T:ここ (A2) ではAグループが立ちました。次は?

C: B。

T:その次 (A3) は?

C: C。

T:誰も立たなかった。その次 (B3) は?

C: B。

T:次 (AとBが重なっているところ) は?

C: A。

C:一緒になったところもあった。

T:ここ (A3) が謎だよね。A1とA2は何が同じ?

C:旋律。

C:リズム。

T:指でリズムを確認してみよう。

C: (一緒にリズム打ちをする。)

T:A1とA2と最後 (AとBが重なっているところ) にAが出てくるんでしょ。ここ (A3) はどうなの?

C:CとA。

T:Aも入っているの?

C:Aは最後らへんに入っている。

T:この順番で並んでいて気付いたことはありませんか?

C:AとBが交互に繰り返し出てくる。

C:最後は一緒に出てくる。

T:ここ (A3) を聴いてみましょう

C:AとBが重なっている。

C:最後の方にAがある。

C:楽器の音がAに似ている。

T:ここ (A3) とA1と違うのは何ですか。

C:リズム...

C:旋律...

T:リズムが違うか指でリズム打ちして聴いてみよう。

C: (リズム打ちしながら聴く。)

T:〇〇さん旋律と言ったけど、〇〇さんが言いたいことは何ですか。

C:楽器の音は似ているけど、リズムっていうか音の動きが違う。

C:音の動きが違うってわかりますか。

T:先生がA3を歌うから、皆さんでA1を歌って一緒に重ねてみよう。

(教師がA3, 子供がA1を同時に歌う。)

T:リズムはどう?

C:微妙に違う。

C:なんか似てる気がする。

T:微妙に違うけどBではないんでしょ。じゃあAの仲間であるAの3。



図1 2つのグループに分かれて立つ活動



図2 音楽に合わせて指で机をリズム打ちする活動

音楽の可視化 (自分の旋律の時に立つ、ホワイトボードで音楽を可視化する) は音楽の構造の理解に有効であったと言える。また同じ旋律の仲間同士を比較聴取させたことにより、AとBのそれぞれの旋律の共通点や相違点についても聴き深めることができたと言える。しかしA3の部分は、それまでの旋律Aとは大きく印象が変わるため、大部分の子供は、旋律Aの仲間であるという認識には至らなかった。これは

比較聴取のさせ方に課題が残ったと言える。聴き方を更新していく子供の姿に迫るためには、初めはCだと思っていたが、何度も聴くうちにAの仲間であると気付くような手立ての工夫が必要である。例えば、子供に聴きたい部分を選ばせてその部分を注意深く聴かせる、リズム打ちをさせる際には目的や机を叩く音の大きさへの意識を持たせる、A1とA3のリズムが同じであるということに気付かせるための他の手立ての工夫などである。

## (2) 子供の紹介文からの考察

以下は、子供の紹介文の記述である。二重線は感じたことについての記述

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・この曲は、飽きなくてリズムにのりたくなってしまいます。最後のAとBが混ざったところが<u>迫力があってリズムが速く</u>なります。いろいろな楽器の音が混ざって<u>おもしろい</u>です。聞いてみてください。</li><li>・とても<u>勇ましく</u>すごい曲です。とても<u>激しい</u>けれど、たまに<u>優しくなったり</u>して気まぐれな曲です。</li><li>・この曲は、<u>2つのメロディーが繰り返されていておもしろい</u>のでおすすめです。</li><li>・1番<u>迫力がある</u>ところは1番最後で、そこが1番好きです。</li><li>・とても<u>迫力があって</u>かっこいい曲です。<u>軽やかな</u>ところもあって<u>元気な</u>ところもあります。何回でも聴きたくなる曲です。</li></ul> |
|---|

子供の紹介文には、この曲の特徴である2つの旋律が交互に出てくること、力強いところと軽やかなところがあること、最後の部分が盛り上がることなどの記述が見られる。これにより子供は音色、旋律、反復とそれらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取り、曲のよさを見いだしながら聴くことができたと言える。しかし、繰り返し出てくるAの旋律でも速さや旋律が少しずつ変化していく面白さについての記述は見られなかった。これはA3の部分の聴かせ方に課題があると言える。A3の部分で子供に気付かせたいことを焦点化し、手立てを考える必要がある。

## 6 本実践の成果と課題

### (1) 成果

本実践における成果は、聴き方を更新していくために、音楽についての気付きを得るための手立ての有効性が明らかになったことである。手立てとして音楽をホワイトボードに線で示し可視化することで、音楽の構造を理解することができた。また、A1とA2というように部分ごとに比較聴取させたことで旋律の共通点、音色や強弱等の違いに気付くことができた。

### (2) 課題

本実践における課題は、子供に気付かせたいことを焦点化する手立てが不十分であったことである。子供が旋律Aの仲間なのか、また別の旋律なのか迷う場面があった。2つの旋律のリズムに焦点化し、根拠をはっきりさせ旋律Aの仲間であるということを実感させることが必要であった。そのためには、同じ部分を再度聴かせる、聴きながら机をリズム打ちさせる、楽譜を示すなどの手立てが考えられる。子供が実感を伴って音楽を捉えて聴き深めていくことができるような多様な手立てについて研究を深めていく必要がある。

(木村 麻美)

### 【実践例② 授業者：神山 ルミ子 対象：1学年1組】

#### 本時で目指す授業

指揮者の合図に合わせてながら友達の音を聴いて音をつなげていく活動において、音色の工夫や音楽の仕組みをいかした表現の面白さについて伝え合うことを通して、どのように音をつなげていくか考え、音遊びの発想を広げて表現を工夫することができる授業。
--

### 1 題材名 「がっきのおとでよびかけっこ」(教育出版 音楽のおくりもの1)

教材名 「中国の踊り」「行進曲」(チャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」より)

### 2 題材の目標

○環境音や打楽器等の音の特徴や、音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さに気付くとともに、音楽の仕組みをいかして即興的に音をつなげて表現することができる。

○聴いた音や音楽から音色や反復、呼びかけとこたえ等を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、音遊びを通して音楽づくりの発想を得たり、どのように音を音楽にしていくかについて意図

をもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。

○身の回りの環境音や打楽器等の音色の特徴、よびかけっこの音楽等に興味をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

### 3 目指す子供を育てるために

#### 題材で目指す子供の姿

即興的に音をつなげて表現したり、友達の表現を聴いたりする中で、音の特徴や音楽の仕組みとその働きについての新たな面白さを見だし、模倣して自分の表現に取り入れたり、さらに面白い表現を求めて試したりして、表現についての発想を広げ、多様に表現を工夫していく姿。

#### 手立て

- ・ 中心とする要素の焦点化…音のつなげ方、音色、反復、呼びかけとこたえ
- ・ 聴き合い、面白さを見いだす活動(音楽の可視化、表現の模倣、再現、比較聴取、音楽の感じを表す言葉の掲示、体を動かしながら聴く活動等)

#### 題材について

- ・ 表現(音楽づくり・器楽)と鑑賞の活動を関連付け、中心とする要素を繰り返し取り上げるにより、子供が既習を活用しながら学習を進めていくことを目指す。
- ・ 言葉ではなく、即興的に音をつなげていく音での対話による音楽づくりを題材の中心とする。
- ・ 身の回りの音や打楽器の音色、演奏の仕方などについての関心を高めることができる。
- ・ 音楽づくりの音素材に打楽器を用いて、演奏技能の差がなく取り組むことができる。
- ・ 打楽器の演奏の仕方を身に付けることができる。
- ・ 表現の工夫の仕方や面白さの感じ方が多様であるため、互いのよさを認め合う態度を育むことができる。

#### 題材で育てたい資質・能力

- ・ 音楽の仕組み(反復、呼びかけとこたえ、順番に等)をいかして音楽をつくる力。
- ・ 環境音や打楽器の音の特徴や音のつなげ方の工夫等について、気付いたことを伝える力。
- ・ 音色の特徴や音楽の仕組みとそれらの働きが生み出す面白さを関連付けて捉え、音のつなげ方について工夫し表現する力。
- ・ 友達の表現や考えから見いだしたよさを自分の表現にいかす力。
- ・ さらに面白い表現を求めて、繰り返し表現を試す力。

#### 子供の実態

- ・ 音楽から音色や仕組み、その面白さ等を見いだすことについては個人差がある。
- ・ 言葉や手拍子による簡単なリズムづくりやそれをつなげた音遊びの経験をしている。
- ・ 手作りマラカスの中身を変えて、音色を楽しみながらリズム遊びをする姿が見られる。
- ・ 聴き取った音楽の特徴や音楽から感じ取ったことを言葉で表現することが難しい。
- ・ 友達の表現からよさを見付けたり、自分の表現に生かそうとしたりする姿が見られる。

主に働かせる見方・考え方  
音色や音楽の仕組み(反復、呼びかけとこたえ等)に着目して音や音楽の面白さを捉え、音のつなげ方を工夫して音楽をつくったり、曲のよさを見いだして聴いたりする。

## 4 授業の実際

### (1) 本時の目標 (4 / 7)

指揮者の指示に合わせながら、どのように音やフレーズをつなげていくか考え、即興的に音色や音楽の仕組みを工夫することができる。

### (2) 授業の概要

- 1 音楽ゲームをする。
- 2 めあてを確認する。

#### 中心となる要素の焦点化

ペアやグループで音のつなげ方を工夫して音遊びをしよう。

T:(音のつなげ方とは、音色を工夫したり、音楽の仕組み(まねっこ・お話・一緒)を用いたりして表現することであると確認した)

T:音遊びの約束を確認しましょう。

- ①相談せず、よく聴いてつなげる。②音の出し方をいろいろ試す。③音の大きさに気を付ける。

### 3 つなげ方を工夫して音遊びの活動をする。(異なる楽器同士のペアで→同じ楽器を持ったグループで)

C:(友達の音を聴いてつなげていく音遊びの活動をした。)

C:2人のときはできたけど、人数が増えると、いつ音を出したらいいのか難しくなった。

C:相談しないとできないな。

T:音楽には、音を出す合図をする指揮者という役割があります。(やって見せる)

指揮者を交代でやりながら合図に合わせて音をつなげていきましょう。自分に合図が来たら、前の人の音にどのようにつなげるか、まねっこやお話等を考えてつなげてみましょう。

C:(指揮者を交代でやりながらグループで音遊びの活動をした。)

### 4 友達の表現を聴き合う。

#### 表現を聴き合い、面白さを見いだす活動(表現の再現・可視化・比較聴取)

\* 詳細は「5 授業の考察」(1)のプロトコル参照

### 5 友達の表現から気付いたことを生かして、つなげ方をさらに工夫して音遊びをする。

**評価**: 音楽の仕組みや音色の動きが生み出す面白さについて感じ取ったことを基に、どのように音やフレーズをつなげていくか考えながら、指揮者の指示に合わせて即興的に工夫して表現している。(活動3・5で評価する)

### 6 学習を振り返る。

T:今日の音遊びで分かったことやできるようになったことなどを発表しましょう。

C:今までと違う楽器で音の出し方をいろいろ工夫できました。

C:一つの楽器でもいろんな音を出せることが分かりました。

C:おはなしやまねっこをして音をつなげていったら、いろんなふう音が続いていくことが分かりました。



図3 指揮者の指示で工夫して音をつなげる活動

## 5 考察

### (1) 本時の手立てについて

本時では、①中心となる要素の焦点化、②表現を聴き合い、面白さを見いだす活動(表現の再現・可視化・比較聴取)の2点の手立てを用いて目指す授業の具現化を図った。

①中心となる要素の焦点化では、活動1の音楽ゲームで全員が丸くなって手拍子回しをする活動を通して、子供が面白いと感じた表現について共有した。そして、音色や強弱、反復等の工夫についての気づきを基に、前時までの音遊びの活動も生かしてめあてを設定した。音のつなげ方については、既習に触れることにより、音色と音楽の仕組みの反復(授業では「まねっこ」)、呼びかけとこたえ(授業では「お話」)等を工夫するという点を確認し、子供の思考に沿った展開とした。このように、中心となる要素を音色と音楽の仕組みに焦点化することにより、この後の音遊びでは子供がこれらを意識して行うことができた。また、以下の活動4の場面の聴き合う活動においても、下線部のような音色や音楽の仕組みについての発言が見られ、焦点化された対話により学習が深まったと言える。



T:友達の音遊びを聴きながら、まねっこだと思ったら手を挙げましょう。

C:(音遊びを聴いた。) (手立て:表現の再現・挙手による音楽の仕組みの可視化)

C:まねっこはなくてお話でつなげていました。一つの楽器でも音を変えて2種類の音を出して  
いました。

T:お話するときに、一回ごとに音を変えて工夫していたのですね。

C:(音遊びを聴いた。)

T:みんな、手を挙げるところと挙げなかったところがあったね。ということは、

C:今度は、まねっこしたりお話したり、変えていました。まねっことお話が両方ありました。

T:もしも、こうだったらどうでしょう。(まねっこばかりの表現をしてみせた。) (手立て:表現の比較聴取)

まねっこだけするのとお話も入れるのでは、どのように違って聴こえますか。

C:いろいろ混ぜり合って楽しく聴こえます。ずっとまねっこばかりで同じだと飽きてくるね。

C:お話やまねっこをしてつなげ方を変えると、混ぜていて分かりにくくなってしまいます。

T:いろいろな考えがあるね。まねっこやお話をして音をつなげると、いろいろな音楽になるし、いろいろな聴こえ方をするということですね。



図4 挙手で仕組みを可視化

上記のように、子供が音色や音楽の仕組みを工夫し、どのように音をつなげていくか考えながら音遊びの活動に取り組む姿が見られたことから、本時の目標は概ね達成されたと言える。

手立て②の表現を聴き合い、面白さを見いだす活動(表現の再現・可視化・比較聴取)は、子供が友達の表現のよさを自分の表現に生かすことができるようにするための活動である。友達の表現から反復や呼びかけとこたえ等の音楽の仕組みが見つかったら挙手しながら聴くという活動により、表現の可視化を図った。また、対照的な表現と比較聴取させ、仕組みを工夫した表現のよさ、面白さに気付くことができるようにした。上記のプロトコルから、音楽の仕組みを見だし、音のつなげ方を工夫すると多様な表現ができるということに子供が気付いたと言える。しかし、仕組みの用い方によってどのようなよさや面白さがあるかという点についての発言は少なく、取り上げた表現について十分な価値付けができなかった。そのため、音遊びの表現をさらに工夫する活動5においては、音色や音楽の仕組みの工夫は見られたものの、発想が広がらず、活動4との変容があまり見られないという課題が残った。

## (2) 子供の振り返りカードから

以下は、本時の学習後の子供の振り返りカードの記述である。

下線…【音楽の仕組みについて】【音色等、音の出し方について】【友達の表現からの気づき】

- ・音で「なあに」と「いいよ」をいいました。トーンチャイムで音をのぼしたりみじかくしたりしておはなしをしていたのいいとおもいました。
- ・たのしい音でまねっこ、おはなし、いっしょをやったらたのしいおんがくになりました。きいた音では、〇〇さんの音がひびいていてきれいでした。
- ・ともだちとまるくなって音をつなげるのがたのしかったです。ながい音でのぼしたりとめたりしながらまねっこしたらおもしろくなりました。
- ・音をつなげたらきれいな音がくになりました。その音でまねっこやおはなしをしたら気持ちがいいです。
- ・ともだちがながい音を出したので、わたしはみじかい音を出しました。ギロシェーカーのグループはまねっこをたくさんしてすごいなあとおもいました。わたしもやってみようとおもいます。

子供の振り返りには、音楽の仕組みを工夫した記述、音色等を工夫した記述、友だちの表現から面白さを見いだしている記述が見られる。このことから、子供が、中心となる要素(音色や音楽の仕組み)を意識しながら友達の表現を聴いたり、自分の表現に用いたりしていたことが分かる。また、工夫により様々な音楽表現ができるということに気づき、それを楽しみながら音遊びをしていたと言える。しかし、友達の表現を自分の表現に取り入れてみたり、様々な表現を試みたりしたという記述は見られなかった。



### (3) 子供の自己評価の結果から

本題材の学習の最後に子供が学習を振り返って自己評価したものを表1にまとめた。集計結果より、この題材においては、子供が音楽活動をするときに音を聴くことを意識していたことが分かる。音遊びの活動においては、音色に比べると音楽の仕組みを工夫できたと答えた子供が少ない。これは、上述のように、聴き合う場面において、子供の音楽表現のよさや面白さについての価値付けが不十分だったため、多様な音のつなげ方についての意識が高まらなかったのではないかと考える。

表1 学習後の子供の自己評価の集計結果

	◎ よくできた	○ できた	△ あまりできなかった
音をよく聴くことができましたか。	22 (85%)	4 (15%)	0 (0%)
音楽でお話やまねっこをしたり、音楽から見つけたりすることができましたか。	16 (62%)	9 (34%)	1 (4%)
音色の工夫ができましたか。	19 (73%)	7 (27%)	0 (0%)

(1) (2) (3) より、本時の目標は達成されたが、本時で目指した子供の姿「音遊びの発想を広げて表現を工夫する」の具現化には至らなかったと言える。これは、活動4の手立て②に3点の原因があると考えられる。1点目は、子供の表現を再現したとき、教師が取り上げたい表現とは違うものになってしまったことである。即興的に工夫した音遊びであるため、同じ表現を再現するのが難しかったということである。2点目は、音楽表現はすぐに消えてしまうものであるため、挙手による可視化では一時的なものになってしまったことである。3点目は、比較聴取に取り上げた表現は、違いが曖昧でそのよさや面白さが分かりづらかったことである。これらを改善するためには、聴き合う場面での教師の手立てがより具体的なものでなければならない。例えば、子供の表現を録画しておき、表現の再現に用いる、表現の構造を板書でも可視化し、子供の理解を深める、比較聴取には違いが分かりやすい表現を用いる等のことが考えられる。このような具体的な手立てにより活動4の充実を図り、子供が表現のよさや面白さに気付くことで、創造意欲が湧き、目指す子供の姿が具現化できるのではないかと考える。

## 6 本実践の成果と課題

### (1) 成果

本実践における成果は以下の2点である。

1点目は、中心となる要素の焦点化を図ることにより、活動に向かう子供の意識が焦点化され、思考を深めることができるということが分かったことである。本時の子供の音遊びや共有場面における発言は、ほぼ中心となる要素を意識したものであった。発言する側の子供も聴く側の子供も同じ意識をもつことで対話の内容やその理解を深めることができたと言える。

2点目は、新型コロナウイルス感染症対策のため、子供の対話場面やその方法が限定される中でも可能なグループでの音楽づくりの授業として、互いの表現を聴き合いながら即興的に音をつなげていく音遊びの有効性が明らかとなったことである。子供の自己評価から、音をよく聴こうとして活動していたと言える。また、授業で音を聴くことを大切に扱う活動を設定したことにより、子供が小さな音にも気付いたり、一つ一つの音を大切にしたりする姿が見られた。音楽科の学習の素地となる聴くことへの意識が高まったことは今後の学習に生かされることである。

### (2) 課題

本実践における課題は、表現を聴き合う場面における手立ての具体性を高めていくことである。本実践においては、音楽表現の録画、表現のよさや面白さを共有するための板書による可視化、違いが明確に分かるような比較聴取等を用いることで、子供はさらに思考を深めることができたのではないかと考える。表現を更新し続けていく子供の具現化を図るために、今後は、聴き合う活動における子供の気付きや理解を深めていくことができるように、場面や内容に合わせて手立てを吟味し、その有効性を高めていく必要がある。

(神山 ルミ子)

### Ⅲ これまでの実践から明らかになったこと

#### 1 成果

これまでの実践による成果は、2点ある。

1点目は、中心となる要素の焦点化を図ることにより、活動に向かう子供の意識が焦点化され、思考を深めることができるということが分かったことである。子供の音遊びや共有場面における発言は、ほぼ中心となる要素を意識したものであった。発言する側の子供も聴く側の子供も同じ意識をもつことで対話の内容やその理解を深めることができ、音楽表現に生かされたと言える。

2点目は、対話場面における思考を深めるための手立ての工夫の有効性が明らかになったことである。比較聴取、音楽の可視化、身体の動きを取り入れた活動が効果的だった。それによって、表現や聴き方を更新していくことができたと言える。

#### 2 課題

課題は、子供が表現や聴き方を更新することを繰り返していくためには、表現や演奏のよさや面白さに気付くような具体的な手立ての工夫が必要なことである。例えば、比較聴取の対象を違いが明らかなものにすることや、音楽の変化に着目させるための手立ての工夫、可視化のしかたの工夫などである。今後は、子供が自ら表現のよさや面白さを見いだしていくために、焦点を絞った多様な手立てについて研究を深めていくことが必要である。

(木村 麻美)

#### 【参考文献】

文部科学省『初等教育資料』9月号, 東洋館出版社, 2020

同, 8月号, 東洋館出版社, 2019

同, 6月, 7月号 10月号, 東洋館出版社, 2018

同, 1月号, 3月号, 6月号, 11月号, 東洋館出版社, 2017

R・マリー・シェーファー 今田匡彦『音さがしの本』春秋社, 2008

坪能克裕他『音楽づくりの授業アイデア集 音楽をつくる・音楽を聴く』音楽之友社, 2012

坪能克裕他『鑑賞の授業づくりアイデア集 へ～そ～なの！音楽の仕組み』音楽之友社, 2009